

3-3 将来の意向

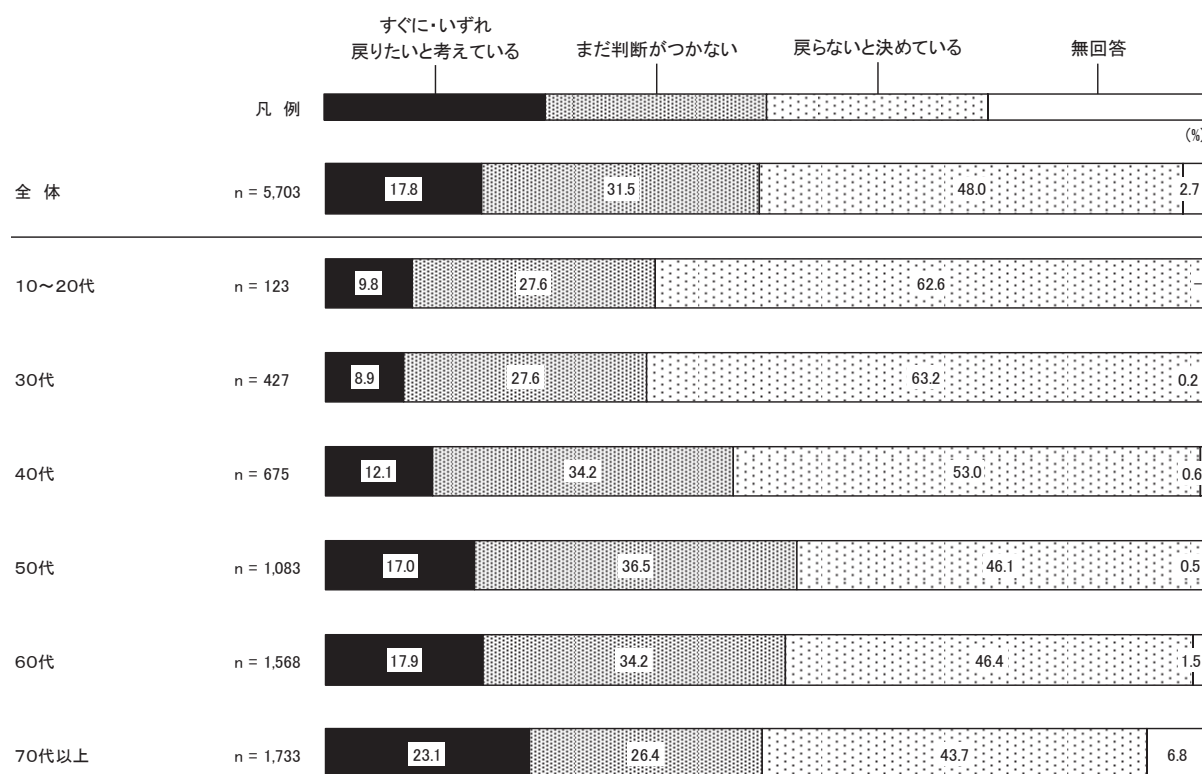
3-3-1 浪江町への帰還意向

問 10 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
 「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（〇は1つ）

将来、浪江町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻らないと決めている」が48.0%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が31.5%、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」が17.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、年齢が高くなるにつれ高くなっており、70代以上では23.1%となっている。一方、「戻らないと決めている」は、10~20代では62.6%、30代では63.2%と6割を超えており、他の年齢に比べ高くなっている。

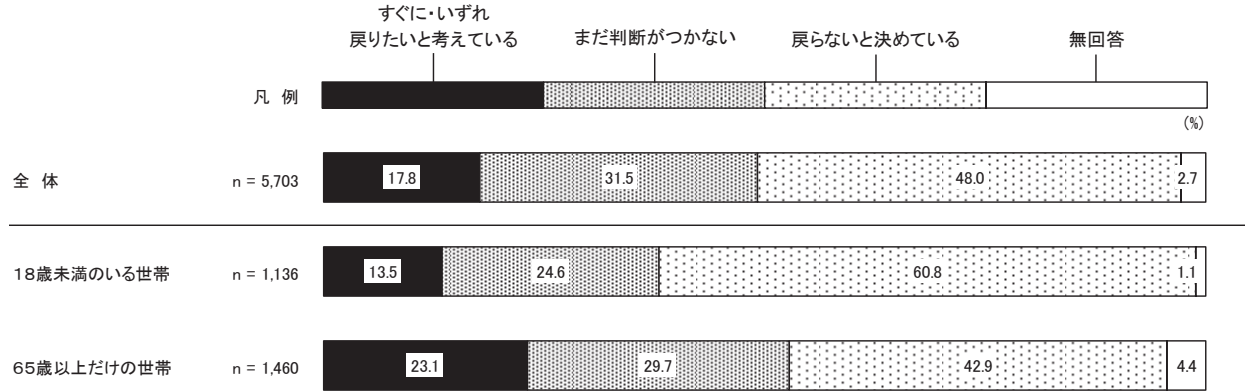
<図表3-3-1-1 浪江町への帰還意向（年齢別）>



III 調査結果

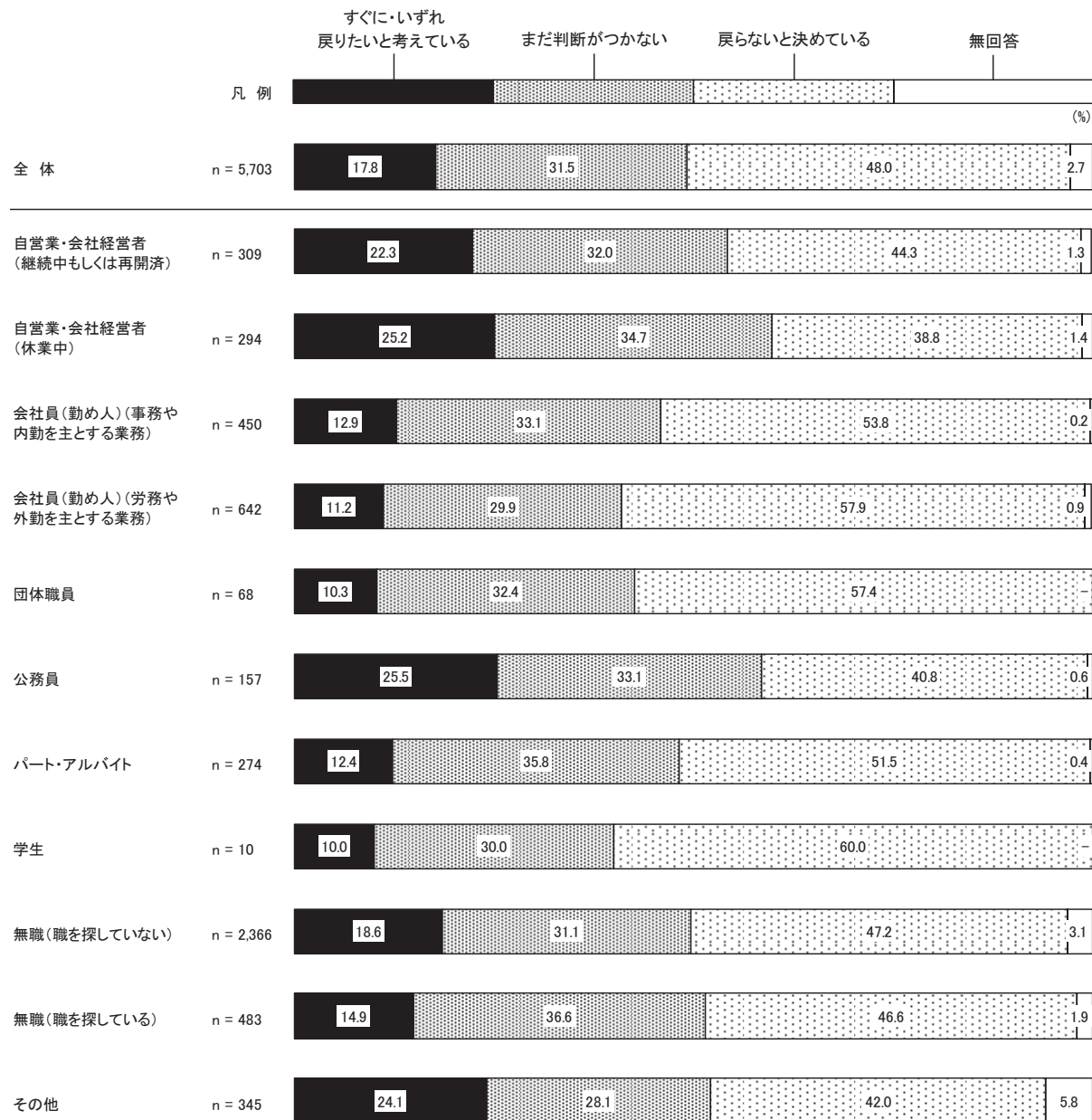
世帯構成別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、65歳以上だけの世帯で23.1%と高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は、18歳未満のいる世帯で60.8%と6割を超えており、高くなっている。

＜図表3-3-1-2 浪江町への帰還意向（世帯構成別）＞



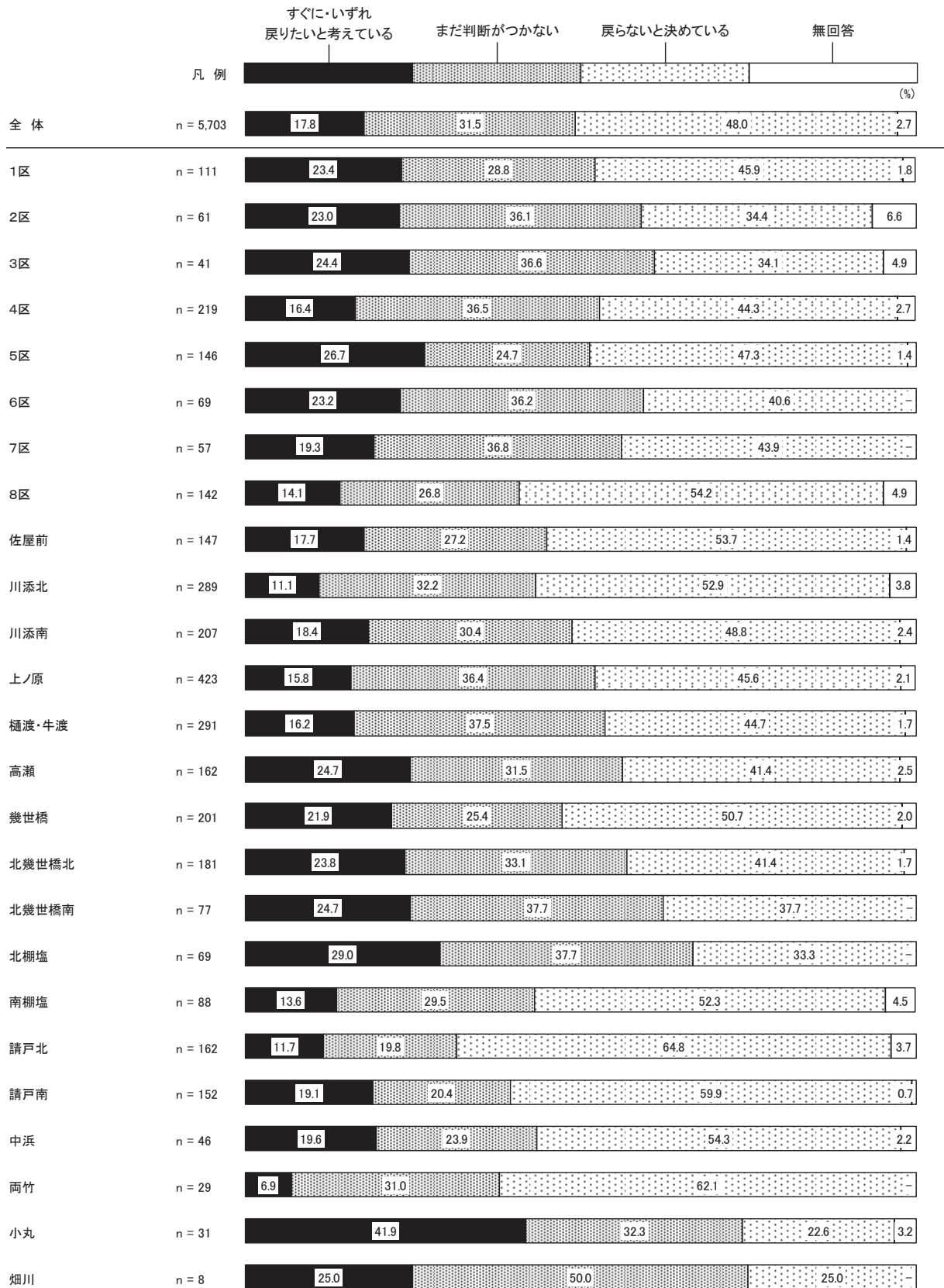
職業別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、公務員が25.5%と最も高く、次いで、自営業・会社経営者（休業中）が25.2%、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が22.3%となっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（57.9%）、団体職員（57.4%）で高くなっている。

<図表3-3-1-3 浪江町への帰還意向（職業別）>

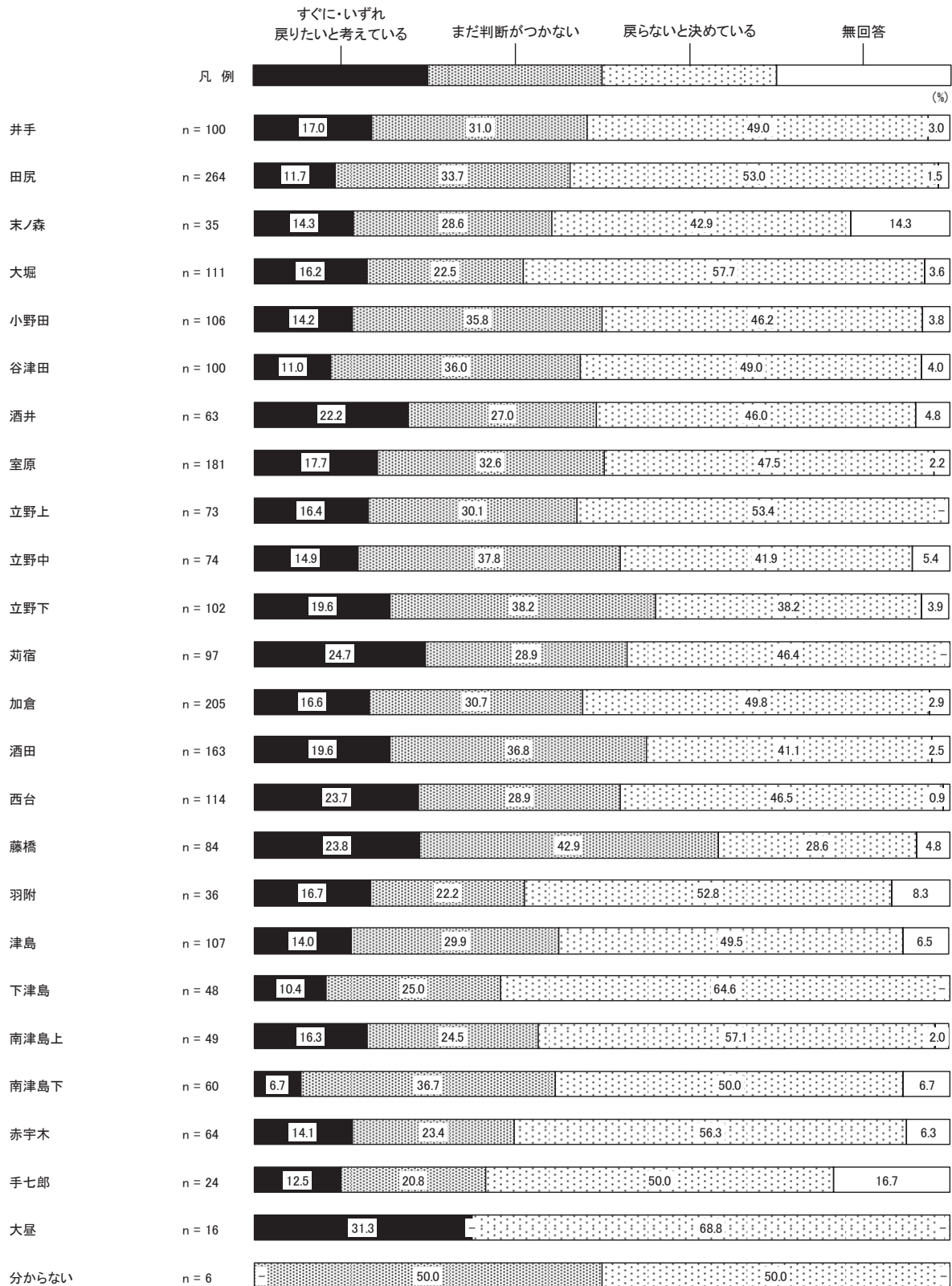


震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、小丸（41.9%）、大屋（31.3%）、北棚塩（29.0%）で3割弱から4割強と高くなっている。

＜図表3-3-1-4 浪江町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

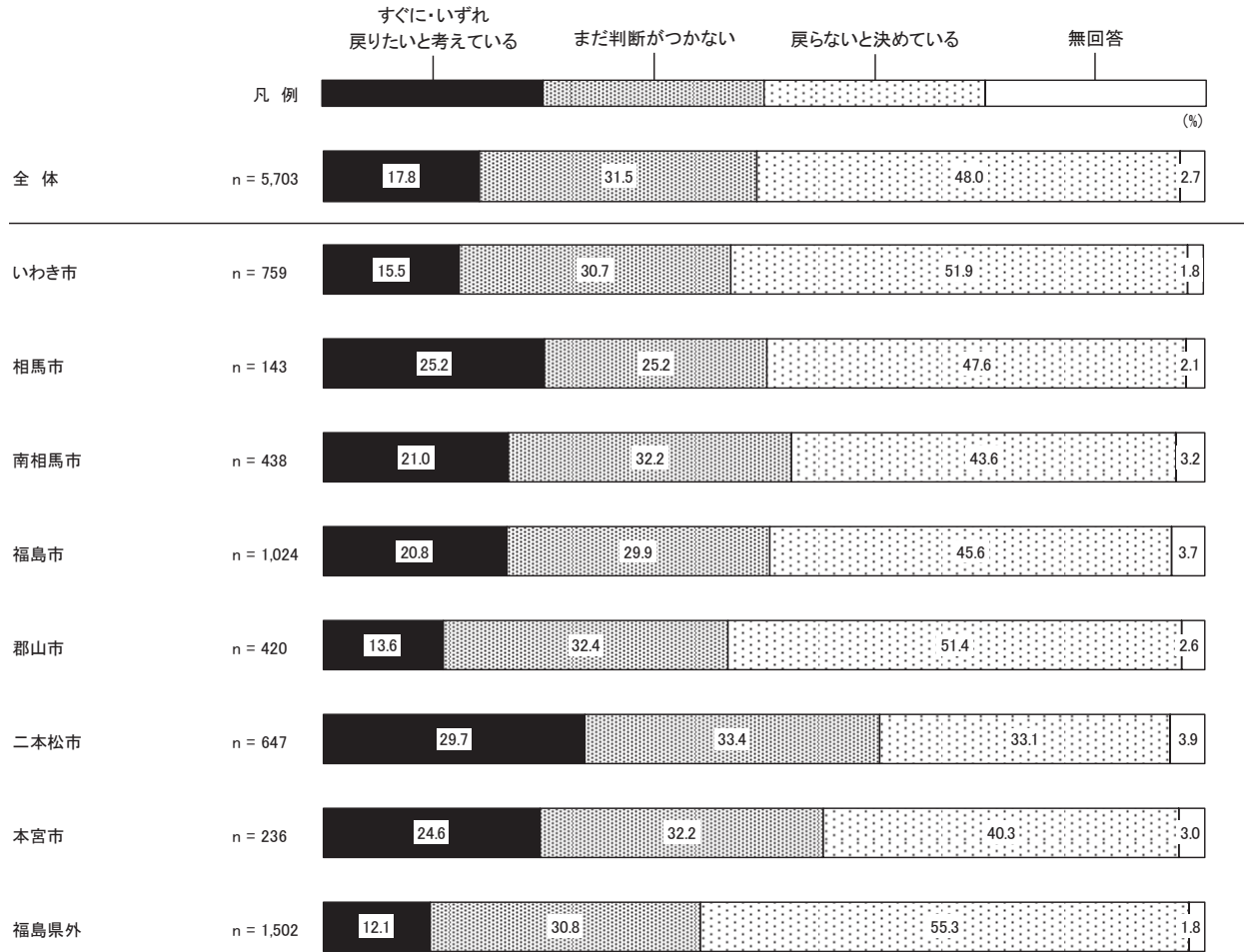


<図表3-3-1-4 浪江町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）続き>



主な避難先自治体別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、二本松市では 29.7%、相馬市では 25.2%、本宮市では 24.6%となっており、他の避難先自治体に比べやや高くなっている。

<図表3-3-1-5 浪江町への帰還意向（主な避難先自治体別）>



3-3-2 浪江町への帰還時期

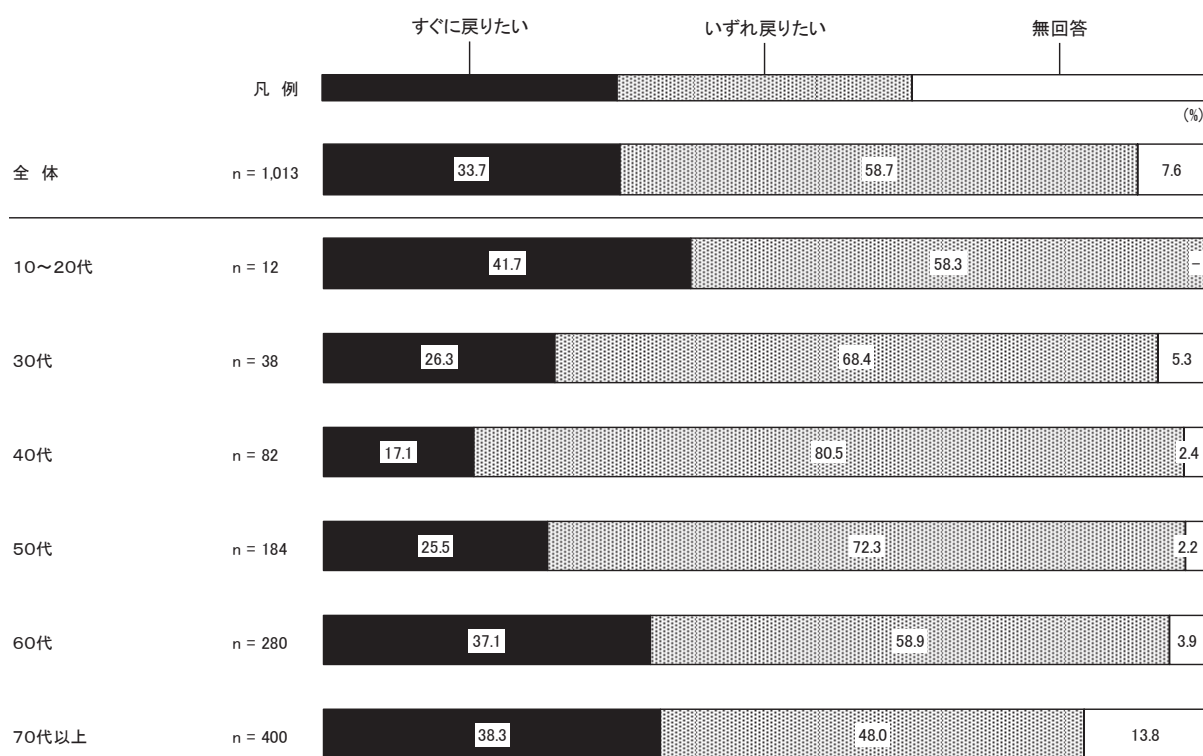
【問 10で「1.すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 浪江町へ戻る時期を教えてください。(〇は1つ)

浪江町への帰還時期については、「いずれ戻りたい」が58.7%と最も高く、「すぐに戻りたい」は33.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「すぐに戻りたい」は70代以上で38.3%、60代で37.1%と、他の年齢に比べ高くなっている。

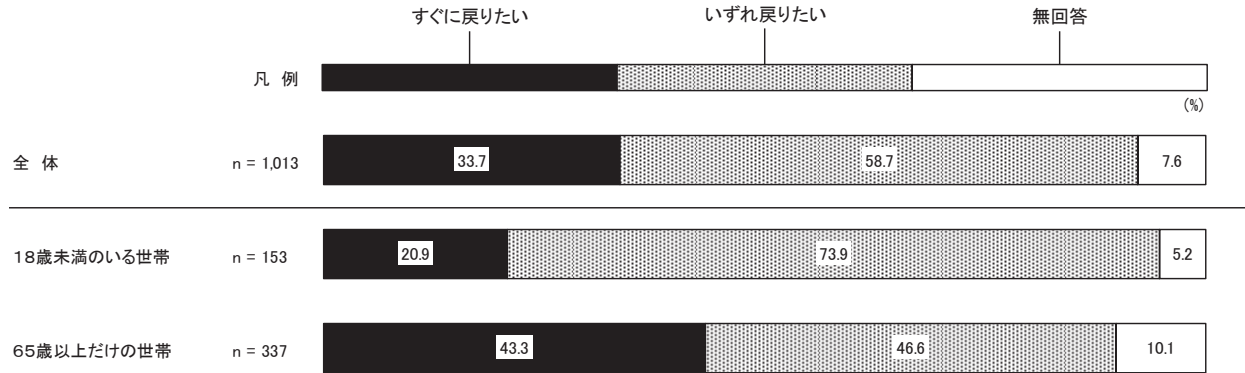
<図表3-3-2-1 浪江町への帰還時期（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、「すぐに戻りたい」は65歳以上だけの世帯が43.3%と高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯は「いずれ戻りたい」が73.9%と7割以上を占めている。

<図表3-3-2-2 浪江町への帰還時期（世帯構成別）>



3-3-3 浪江町へ戻る場合の家族

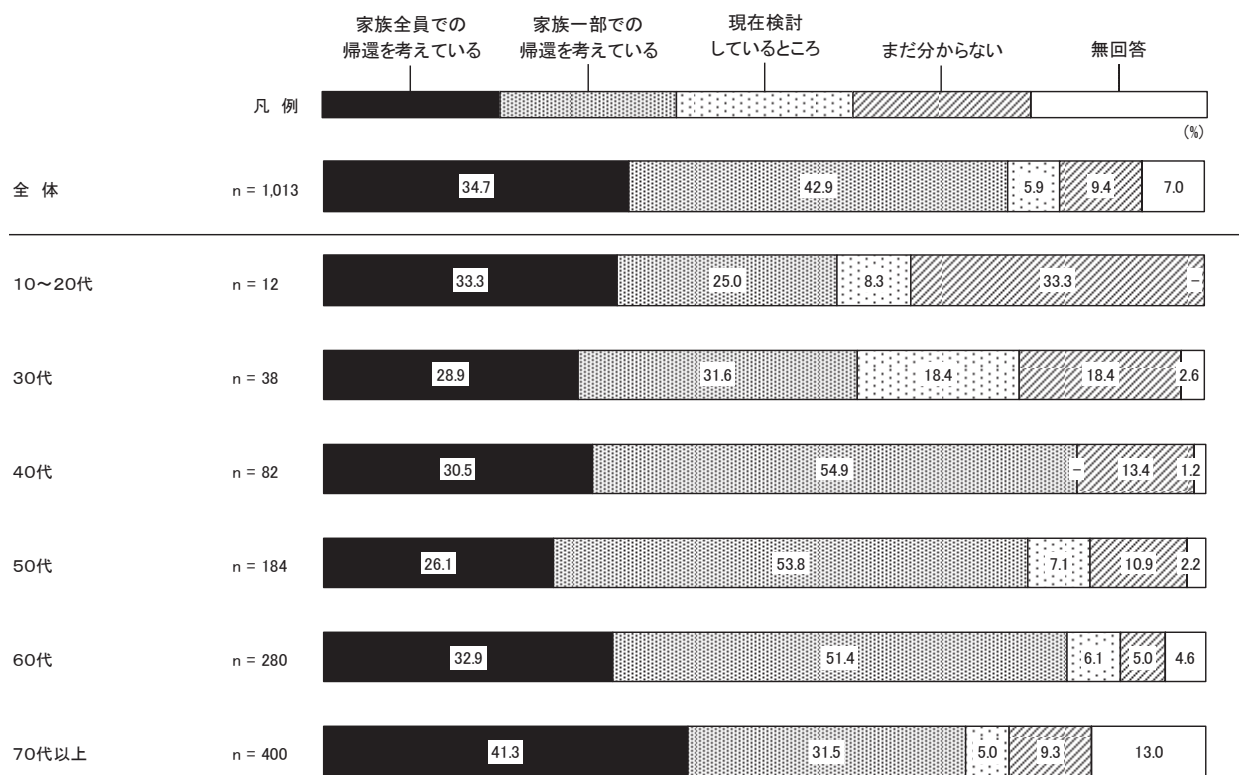
【問 10 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(〇は1つ)

浪江町へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が42.9%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が34.7%、「現在検討しているところ」と「まだ分からない」が合わせて15.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、70代以上が41.3%と高くなっている。「家族一部での帰還を考えている」は40代が54.9%、50代が53.8%、60代が51.4%と5割を超えている。

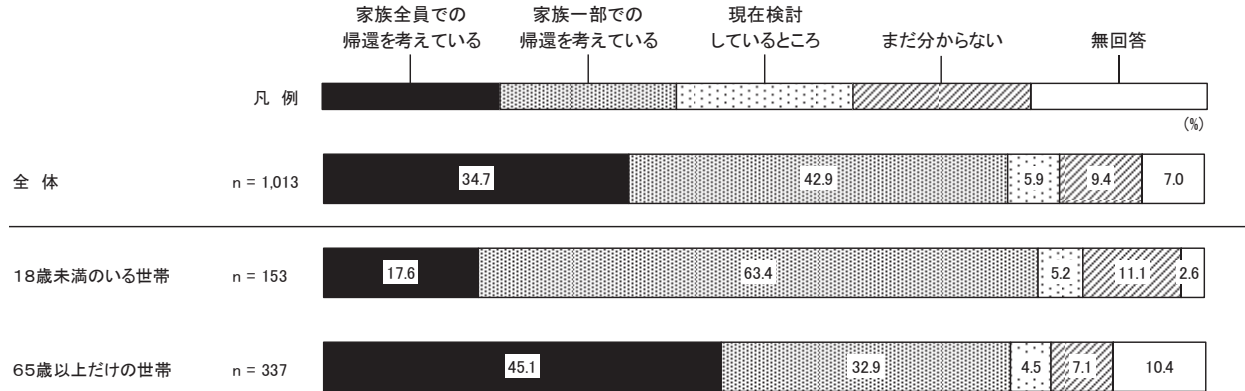
＜図表3-3-3-1 浪江町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



III 調査結果

世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65歳以上だけの世帯が45.1%を占めるが、18歳未満のいる世帯では17.6%にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は18歳未満のいる世帯で63.4%と高くなっている。

<図表3-3-3-2 浪江町へ戻る場合の家族（世帯構成別）>



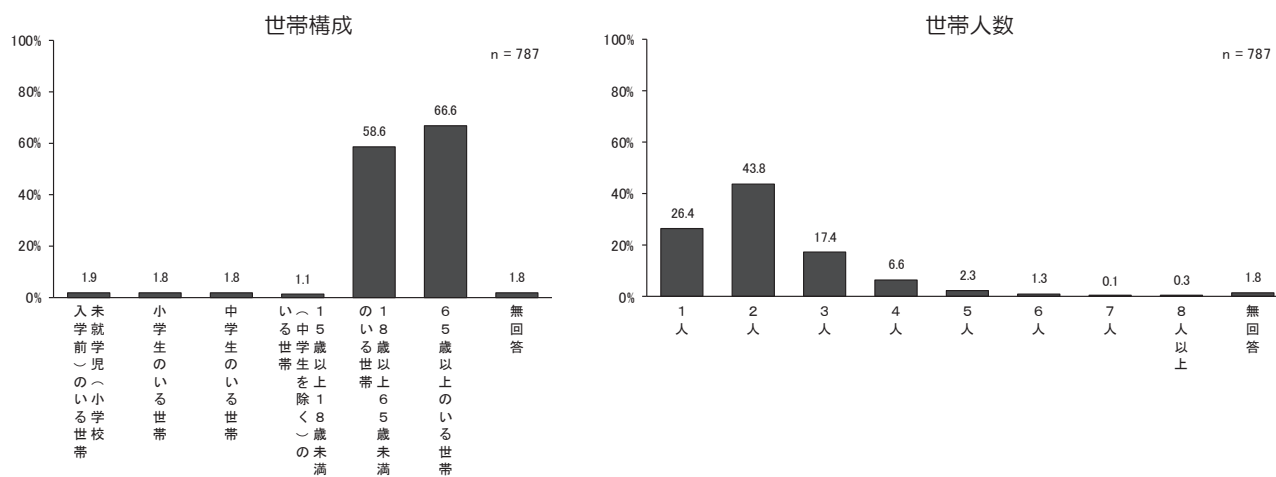
3-3-4 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数

【問 10-1 で「1.家族全員での帰還を考えている」「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 戻る予定の家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

浪江町へ戻る場合の世帯構成については、「65 歳以上のいる世帯」(66.6%)、「18 歳以上 65 歳未満のいる世帯」(58.6%)が 6 割前後と高く、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15 歳以上 18 歳未満のいる世帯」は約 1%~2%とほとんどいない。世帯人数については、「2 人」が 43.8%と最も高く、次いで「1 人」が 26.4%、「3 人」が 17.4%となっている。

<図表 3-3-4-1 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数>



3-3-5 浪江町へ帰還する場合の住居形態

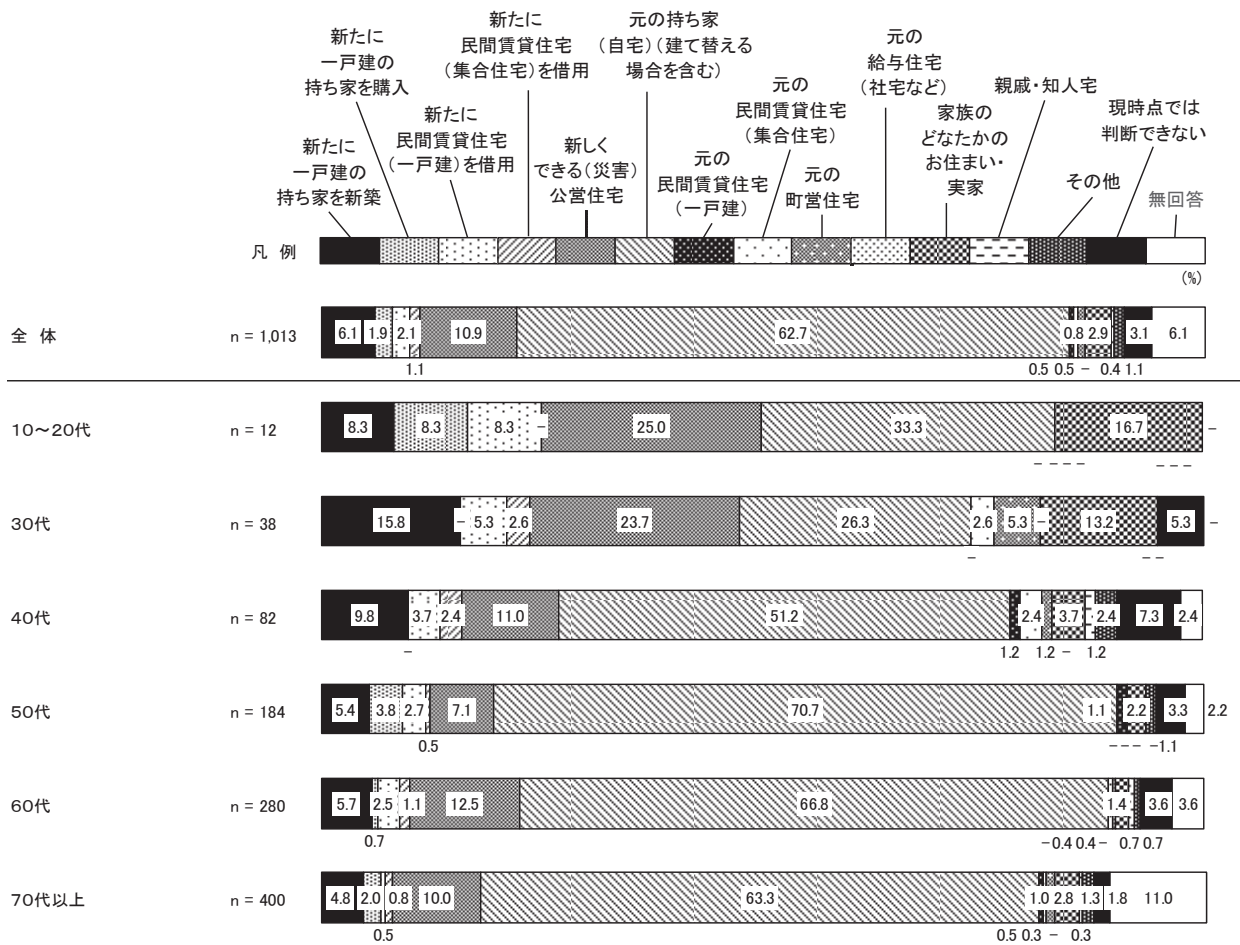
【問 10 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

浪江町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 62.7% と6割以上を占め、次いで「新しくできる（災害）公営住宅」が 10.9% となっている。

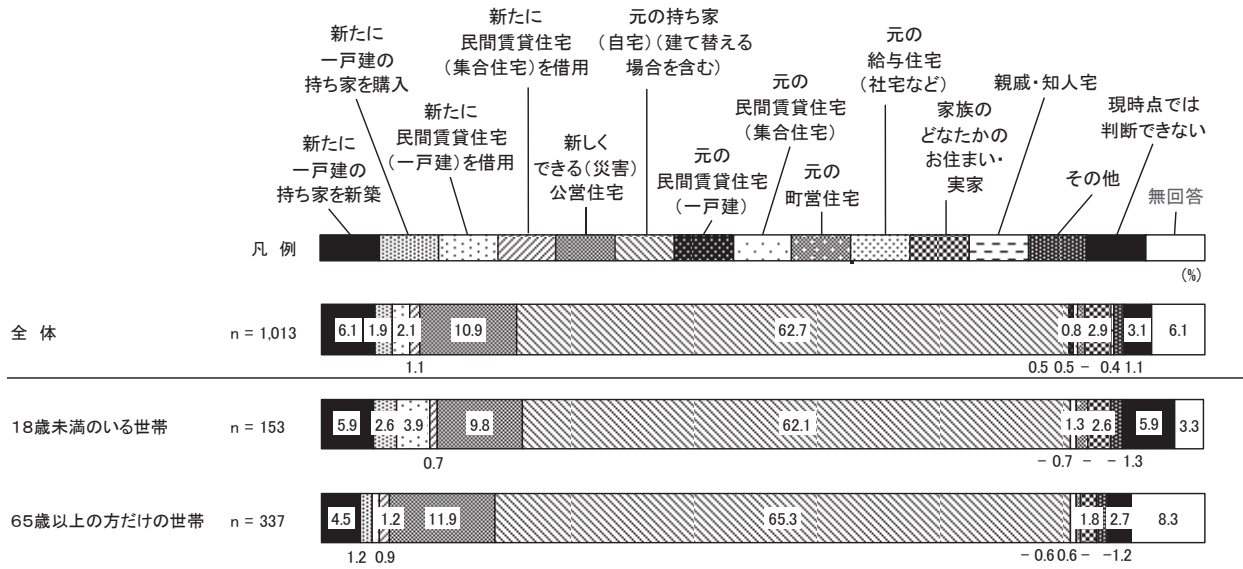
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が最も高い。

<図表3-3-5-1 浪江町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみても、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-5-2 浪江町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



<図表3-3-5-3 浪江町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）>

		(%)															
	n	新たに一戸建の新築	新たに一戸建の持ち家を購入	新たに民間賃貸住宅（一戸建）を借用	新たに民間賃貸住宅（集合住宅）を借用	新しくできる（災害）公営住宅	元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）	元の民間賃貸住宅（一戸建）	元の民間賃貸住宅（集合住宅）	元の民間賃貸住宅	元の町営住宅	元の給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	1,013	6.1	1.9	2.1	1.1	10.9	62.7	0.5	0.5	0.8	-	2.9	0.4	1.1	3.1	6.1	
1区	26	3.8	3.8	-	-	7.7	73.1	-	-	-	-	-	3.8	-	7.7	-	
2区	14	14.3	-	7.1	-	14.3	57.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	
3区	10	-	-	10.0	10.0	-	70.0	-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	
4区	36	2.8	-	-	5.6	8.3	72.2	2.8	-	-	-	5.6	-	-	-	2.8	
5区	39	-	-	-	-	-	87.2	-	-	-	-	-	-	-	10.3	2.6	
6区	16	6.3	-	-	-	18.8	43.8	-	-	-	-	18.8	6.3	-	-	6.3	
7区	11	9.1	-	-	-	9.1	81.8	-	9.1	-	-	-	-	-	-	-	
8区	20	-	-	5.0	-	10.0	75.0	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	-	
佐屋前	26	7.7	-	-	-	3.8	65.4	3.8	-	-	-	3.8	-	3.8	3.8	7.7	
川添北	32	3.1	3.1	6.3	3.1	21.9	59.4	-	-	-	-	3.1	-	-	-	-	
川添南	38	-	-	5.3	2.6	13.2	57.9	2.6	2.6	-	-	5.3	-	-	5.3	5.3	
上ノ原	67	6.0	-	-	1.5	16.4	59.7	-	-	3.0	-	6.0	-	-	1.5	6.0	
樋渡・牛渡	47	2.1	2.1	-	-	6.4	66.0	-	6.4	-	-	6.4	-	-	10.6	-	
高瀬	40	2.5	-	-	-	10.0	72.5	-	-	-	-	5.0	-	2.5	2.5	5.0	
幾世橋	44	4.5	-	4.5	2.3	11.4	59.1	-	2.3	-	-	4.5	-	-	2.3	9.1	
北幾世橋北	43	-	-	-	-	4.7	86.0	-	-	-	-	2.3	-	2.3	2.3	2.3	
北幾世橋南	19	-	10.5	-	5.3	5.3	78.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北柳塩	20	5.0	5.0	-	-	-	80.0	-	-	-	-	5.0	-	-	5.0	-	
南柳塩	12	8.3	16.7	-	-	58.3	8.3	-	-	-	-	-	-	-	8.3	-	
講戸北	19	31.6	10.5	5.3	-	52.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
講戸南	29	31.0	3.4	6.9	-	31.0	-	3.4	-	-	-	-	3.4	3.4	3.4	13.8	
中浜	9	33.3	-	-	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44.4	
両竹	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小丸	13	23.1	-	-	-	15.4	53.8	-	-	-	-	-	-	-	7.7	-	
畑川	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
井手	17	5.9	5.9	-	5.9	5.9	64.7	-	-	-	-	-	-	-	5.9	5.9	
田尻	31	3.2	3.2	9.7	-	9.7	64.5	-	-	-	-	-	-	-	-	9.7	
末ノ森	5	-	-	-	-	40.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	
大堀	18	11.1	5.6	-	-	-	50.0	-	-	-	-	5.6	-	-	5.6	22.2	
小野田	15	-	-	6.7	-	6.7	73.3	-	-	-	-	-	-	6.7	-	6.7	
谷津田	11	9.1	18.2	-	-	-	72.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
酒井	14	7.1	7.1	-	-	14.3	57.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	7.1	
室原	32	9.4	-	6.3	-	6.3	68.8	-	-	-	-	-	-	-	-	9.4	
立野上	12	-	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	8.3	-	-	8.3	16.7	
立野中	11	9.1	-	-	-	-	72.7	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	
立野下	20	5.0	-	5.0	-	10.0	70.0	-	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	
功宿	24	8.3	-	4.2	4.2	4.2	70.8	-	-	-	-	-	-	4.2	4.2	-	
加倉	34	2.9	-	2.9	-	17.6	58.8	-	-	-	-	8.8	-	-	2.9	5.9	
酒田	32	3.1	-	-	-	9.4	62.5	-	-	12.5	-	-	-	3.1	-	9.4	
西台	27	-	3.7	-	-	7.4	74.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	11.1	
藤橋	20	15.0	-	-	-	5.0	60.0	-	-	-	-	5.0	5.0	-	5.0	5.0	
羽附	6	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
津島	15	13.3	-	-	-	-	53.3	-	-	13.3	-	6.7	-	-	-	13.3	
下津島	5	20.0	-	-	-	-	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南津島上	8	-	-	-	-	-	62.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	25.0	
南津島下	4	-	-	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
赤宇木	9	-	-	-	-	11.1	77.8	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	
手七郎	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	
大屋	5	-	-	-	-	-	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	
分からない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

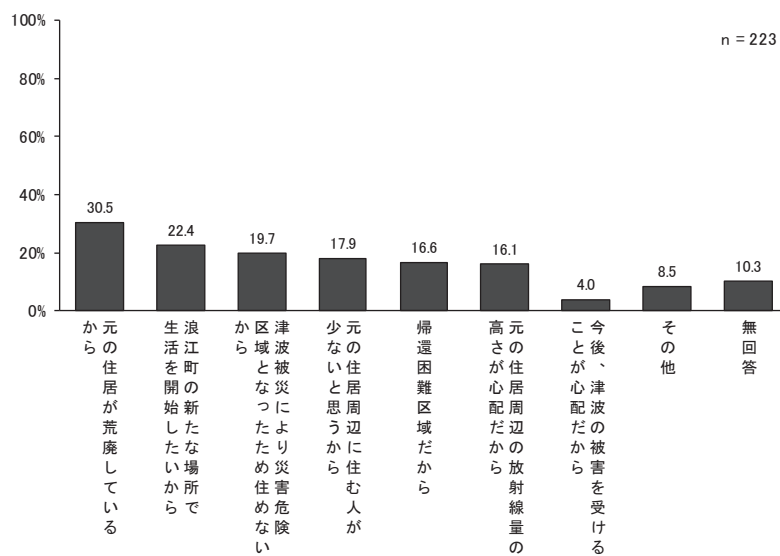
3-3-6 浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 10-3 で「1」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 元の住居と違う場所を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の住居が荒廃しているから」が30.5%と最も高く、次いで「浪江町の新たな場所で生活を開始したいから」が22.4%、「津波被災により災害危険区域となったため住めないから」が19.7%となっている。

<図表3-3-6-1 浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-3-7 浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

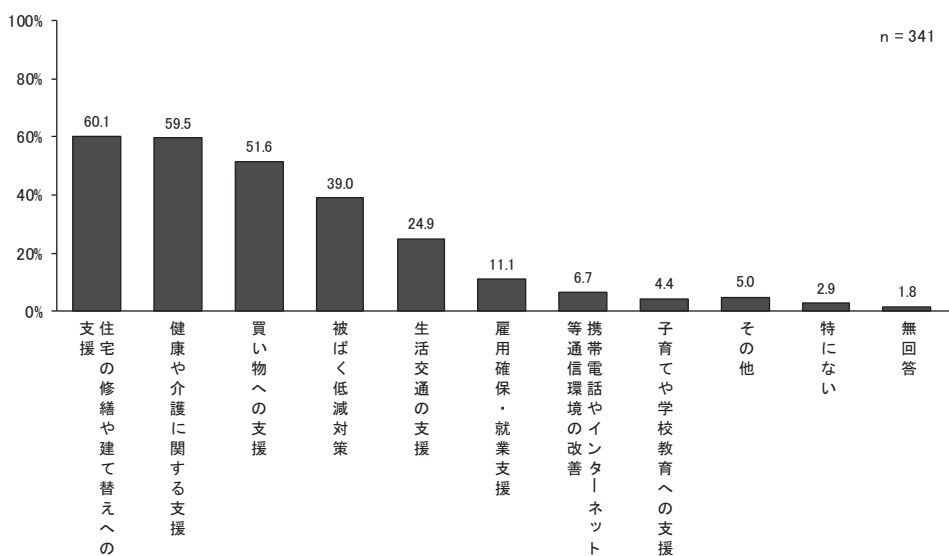
【問 10-5 で「1.すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-6 浪江町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(〇は3つまで)

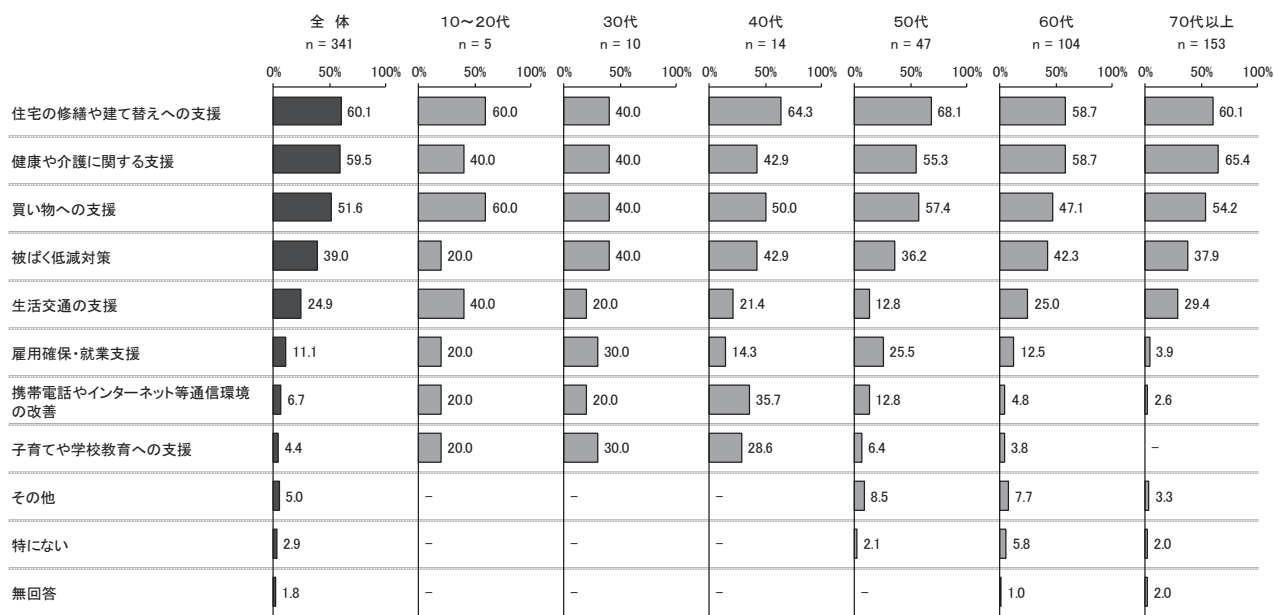
浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が60.1%と最も高く、次いで「健康や介護に関する支援」が59.5%、「買い物への支援」が51.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「住宅の修繕や建て替えへの支援」は50代が68.1%と他の年齢に比べ高くなっている。また、「健康や介護に関する支援」は70代以上が65.4%と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-7-1 浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>

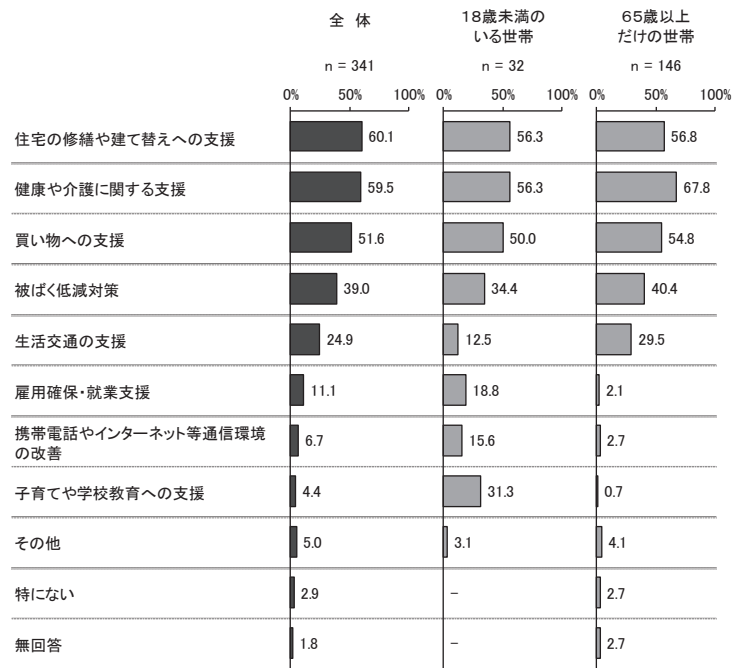


<図表3-3-7-2 浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では、「健康や介護に関する支援」(67.8%)、「生活交通の支援」(29.5%)が全体の割合に比べ高くなっている。また、18歳未満のいる世帯では「子育てや学校教育への支援」(31.3%)、「雇用確保・就業支援」(18.8%)、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(15.6%)が全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-3-7-3 浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



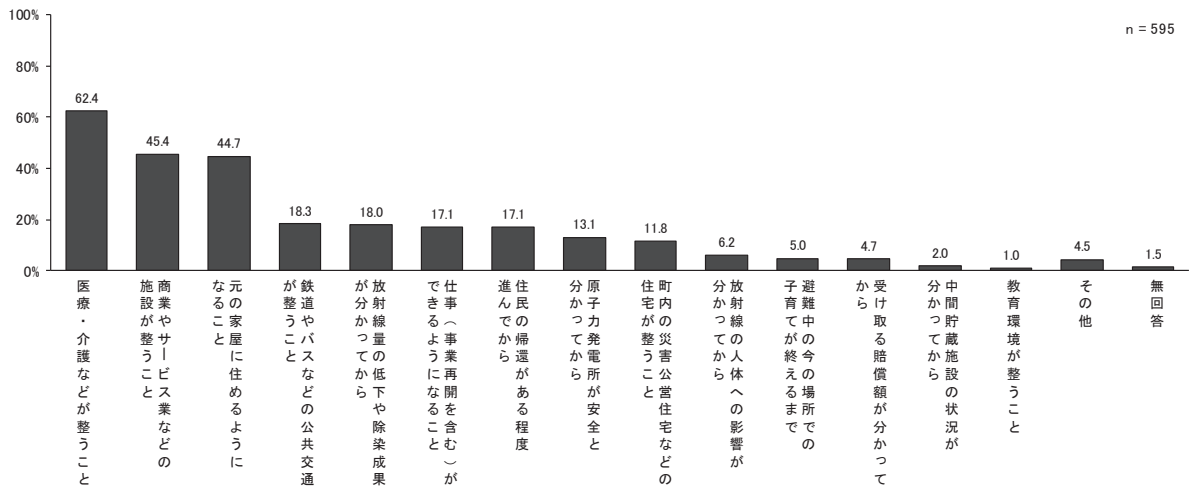
3-3-8 浪江町へいすれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件

【問 10-5 で「2.いすれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-7 戻る時期を判断する条件を教えてください。(〇は3つまで)

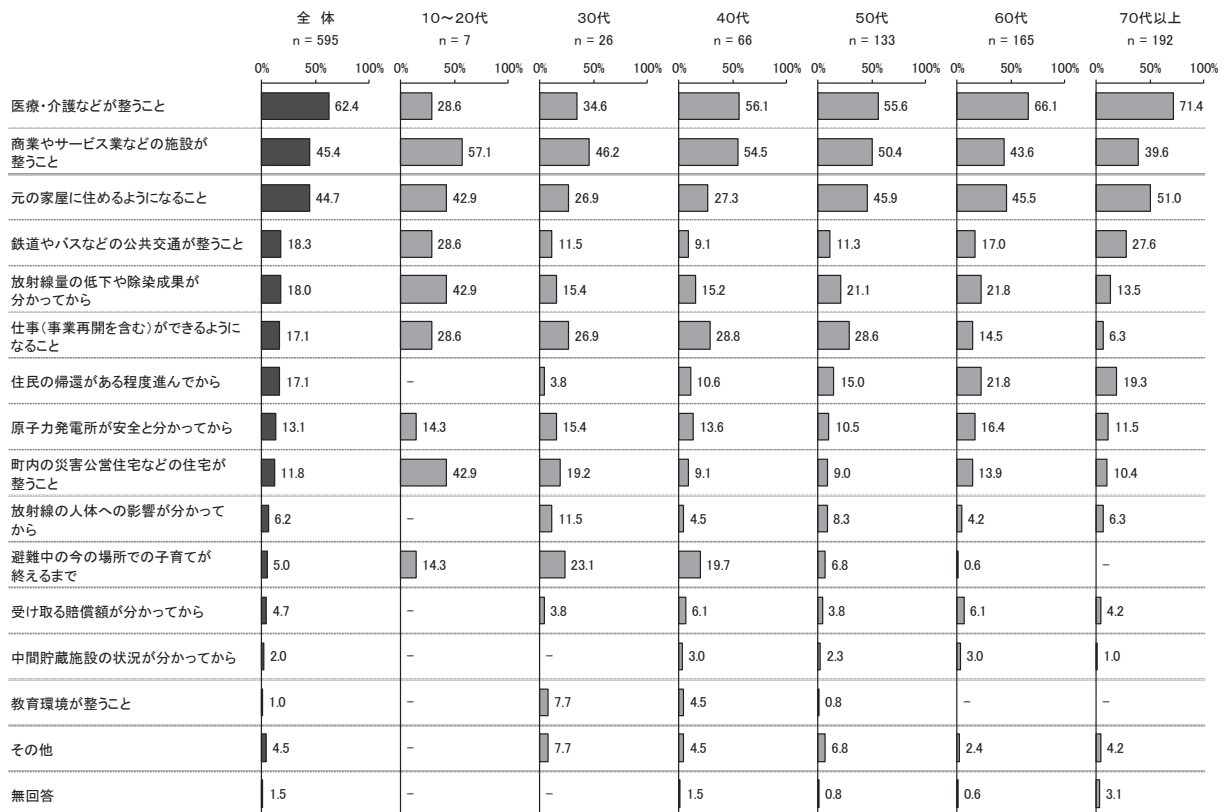
浪江町へいすれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件については、「医療・介護などが整うこと」が62.4%と最も高く、次いで「商業やサービス業などの施設が整うこと」が45.4%、「元の家屋に住めるようになること」が44.7%となっている。

<図表3-3-8-1 浪江町へいすれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件>



回答者の年齢別にみると、40代以上では「医療・介護などが整うこと」が5割以上と最も高くなっている。「商業やサービス業などの施設が整うこと」は40代（54.5%）、50代（50.4%）が他の年齢に比べ高い。

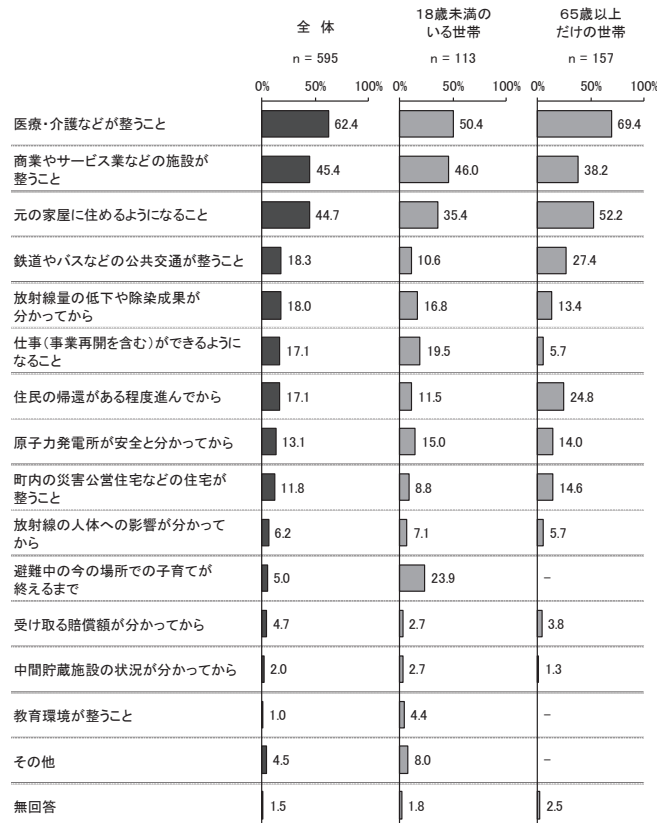
＜図表3-3-8-2 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件（年齢別）＞



III 調査結果

世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯は「医療・介護などが整うこと」(69.4%)、「元の家屋に住めるようになること」(52.2%)、「鉄道やバスなどの公共交通が整うこと」(27.4%)、「住民の帰還がある程度進んでから」(24.8%)が全体の割合に比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では「商業やサービス業などの施設が整うこと」(46.0%)、「避難中の今の場所での子育てが終えるまで」(23.9%)が全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-3-8-3 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件(世帯構成別)>



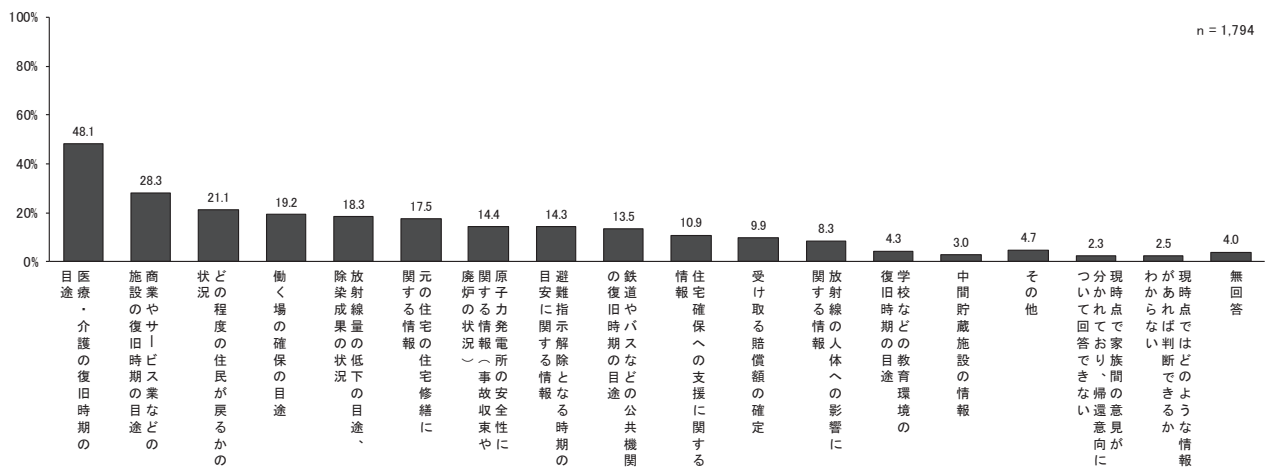
3-3-9 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 10 で「2.まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 10-8 浪江町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇は3つまで)

浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「医療・介護の復旧時期の目途」が 48.1%と最も高く、次いで、「商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途」が 28.3%、「どの程度の住民が戻るかの状況」が 21.1%となっている。

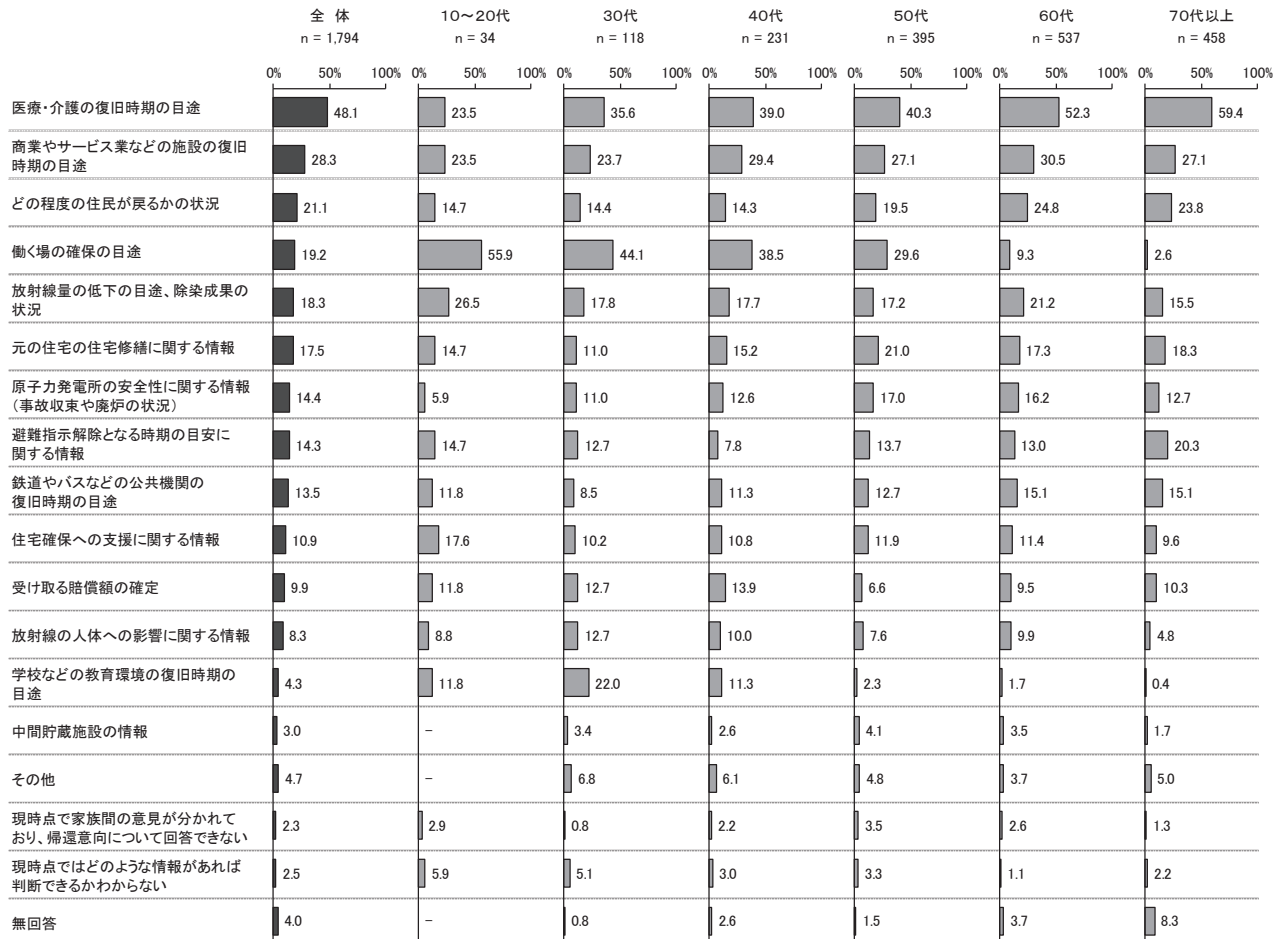
<図表3-3-9-1 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

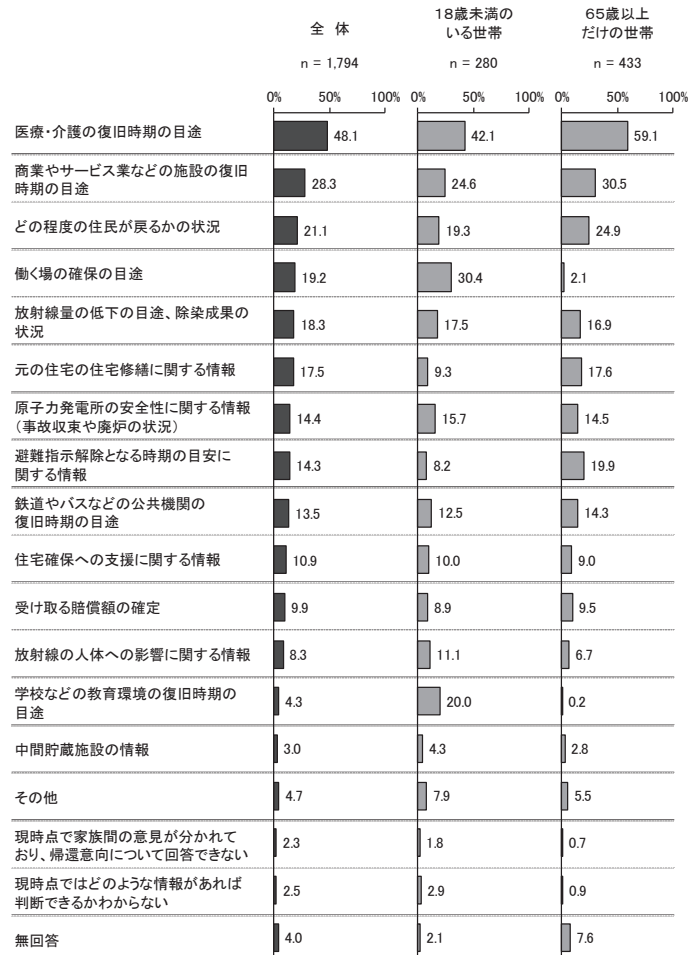
回答者の年齢別にみると、「医療・介護の復旧時期の目途」は60代以上で5割を超え高くなっている。また、「働く場の確保の目途」は10～20代（55.9%）、30代（44.1%）、40代（38.5%）、50代（29.6%）で高くなっている。

<図表3-3-9-2 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、65歳以上の世帯では「医療・介護の復旧時期の目途」(59.1%)が高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では「働く場所の確保の目途」(30.4%)、「学校などの教育環境の復旧時期の目途」(20.0%)が全体の割合に比べ高い。

<図表3-3-9-3 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報(世帯構成別)>



3-3-10 現時点で戻らないと決めている理由

【問10で「3.戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

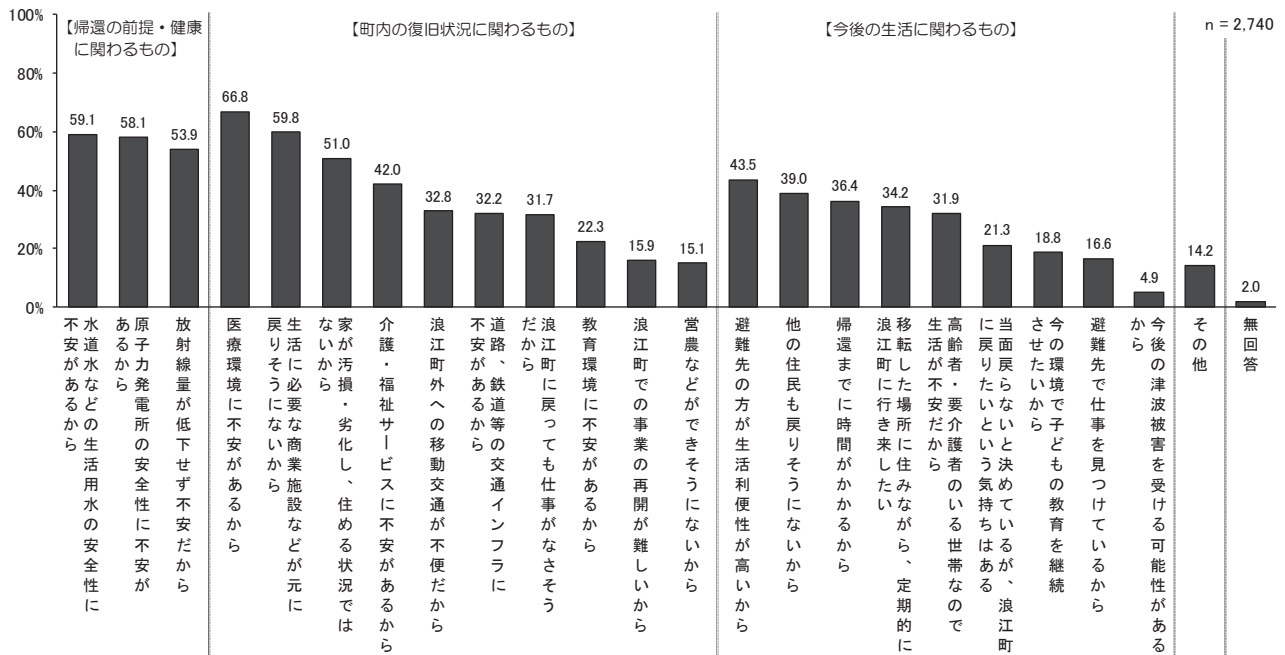
問10-9 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が59.1%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性に不安があるから」が58.1%、「放射線量が低下せず不安だから」が53.9%となっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が66.8%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が59.8%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が51.0%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」が43.5%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が39.0%、「帰還までに時間がかかるから」が36.4%となっている。

<図表3-3-10-1 現時点で戻らないと決めている理由>

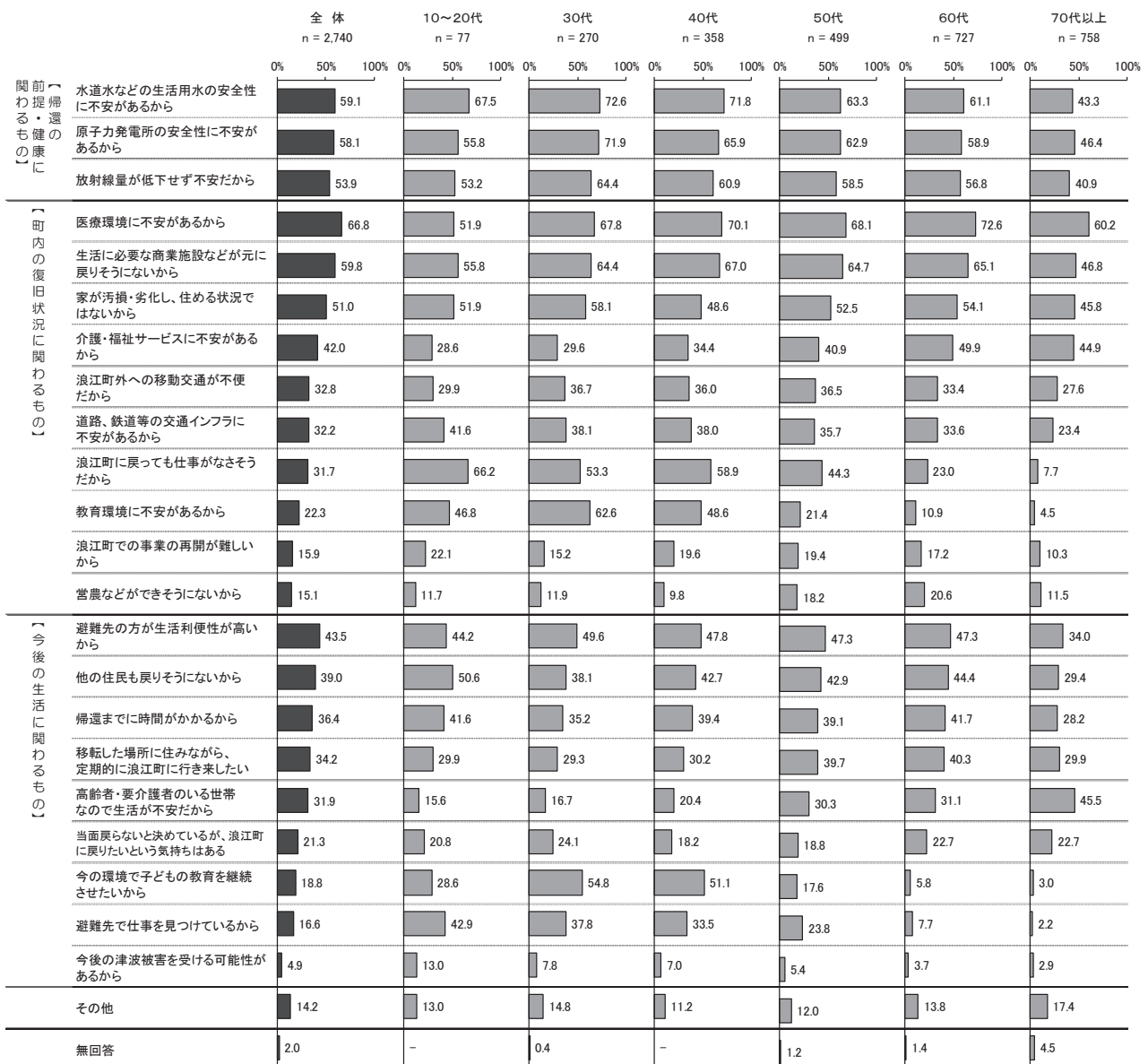


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は、30代（72.6%）、40代（71.8%）、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は30代（71.9%）で7割を超えおり、他の年齢と比べ高くなっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」は、40代（70.1%）、60代（72.6%）、「浪江町に戻っても仕事がなさそうだから」は、10～20代（66.2%）、「教育環境に不安があるから」は30代（62.6%）で他の年齢と比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は、70代以上（45.5%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、30代（54.8%）、40代（51.1%）、「避難先で仕事を見つけているから」は、10～20代（42.9%）、20代（37.8%）、40代（33.5%）で他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-10-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>

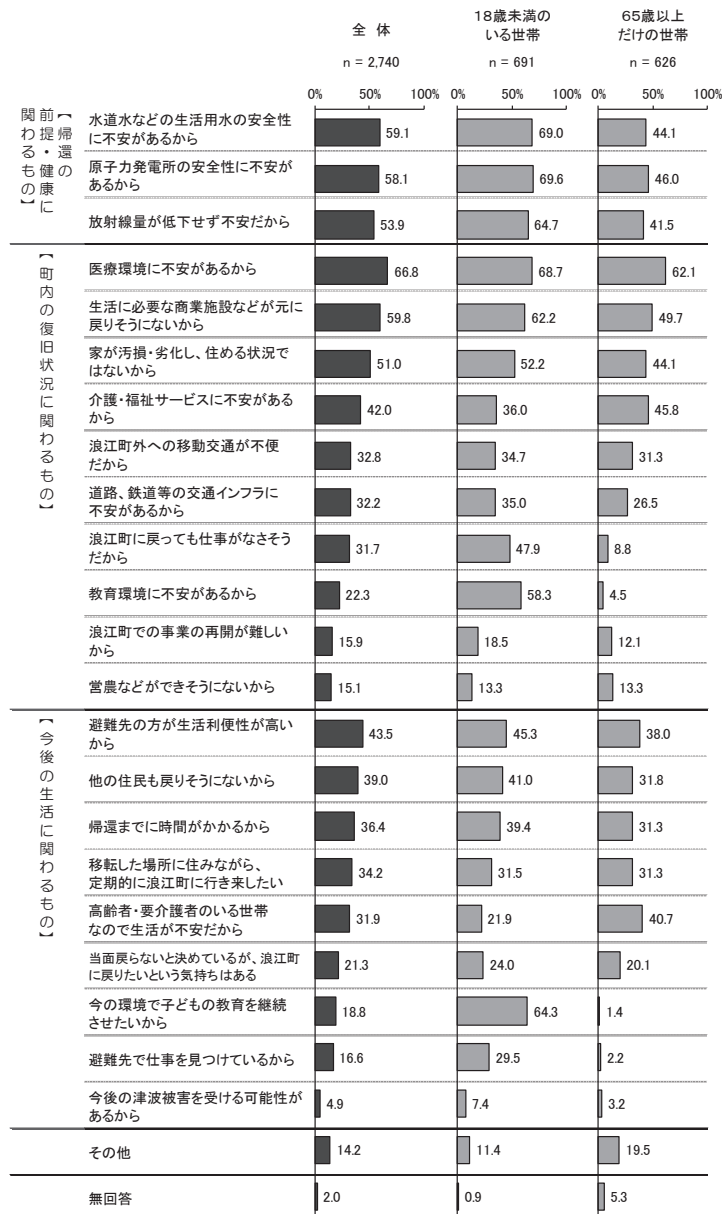


世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」について、18歳未満のいる世帯は6割～7割弱であり、全体の割合と比べ高くなっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯で「浪江町に戻っても仕事がなさそうだから」(47.9%)、「教育環境に不安があるから」(58.3%)が、全体の割合と比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯(40.7%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18歳未満のいる世帯(64.3%)が高くなっている。

<図表3-3-10-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-3-11 帰還しない場合に居住したい自治体

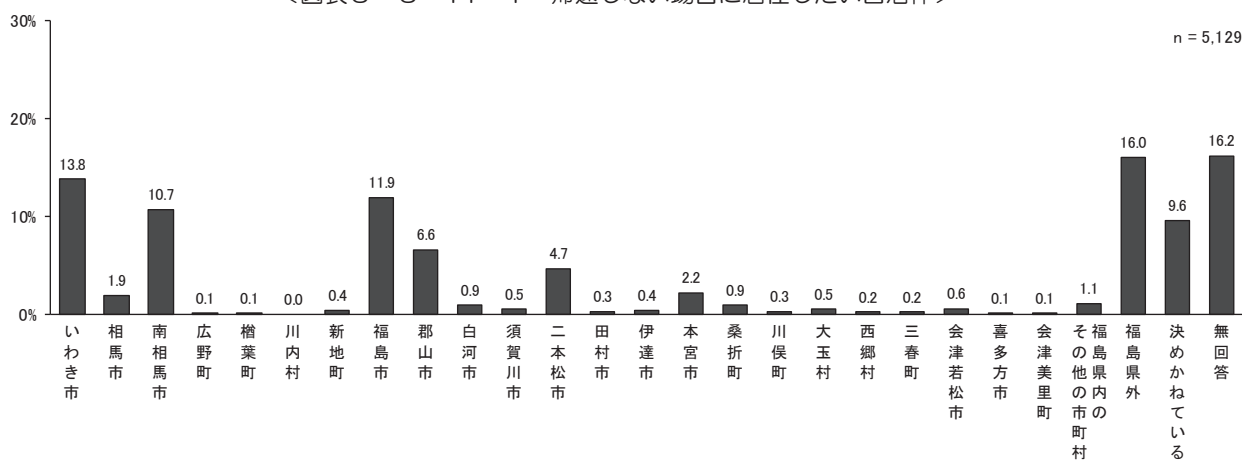
【問 10-5 で「2.いずれ戻りたい」、問 10 で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」と回答した方におうかがいします。】

問 10-10 帰還しない場合に、今後、居住を希望する市町村（現在のお住まいのままの方は現在の市町村）はどちらですか。その市町村を教えてください。（〇は1つ）

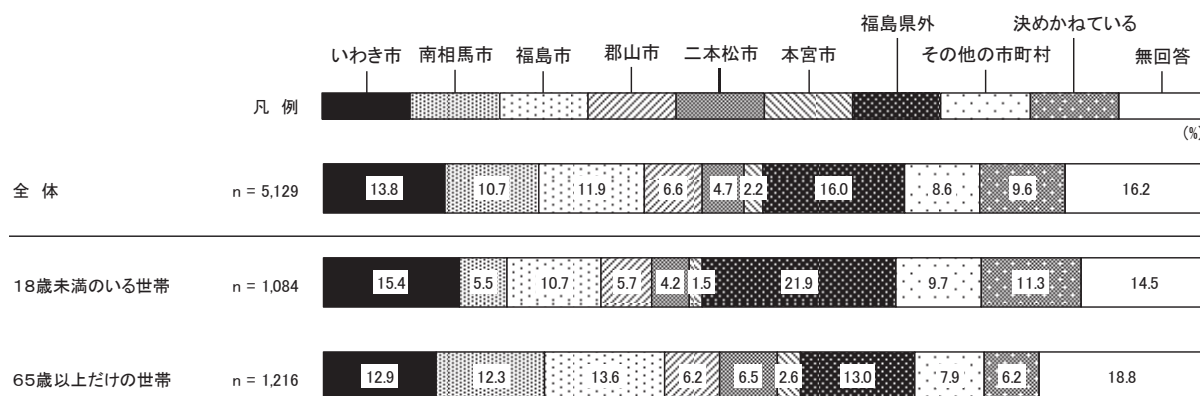
帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島県外」が 16.0%と最も高く、次いで「いわき市」が 13.8%、「福島市」が 11.9%となっている。

世帯構成別にみると、「南相馬市」は 65 歳以上だけの世帯が 12.3%と、全体の割合と比べ高くなっている。一方、「福島県外」は 18 歳未満のいる世帯で 21.9%と、全体の割合と比べ高くなっている。

<図表 3-3-11-1 帰還しない場合に居住したい自治体>

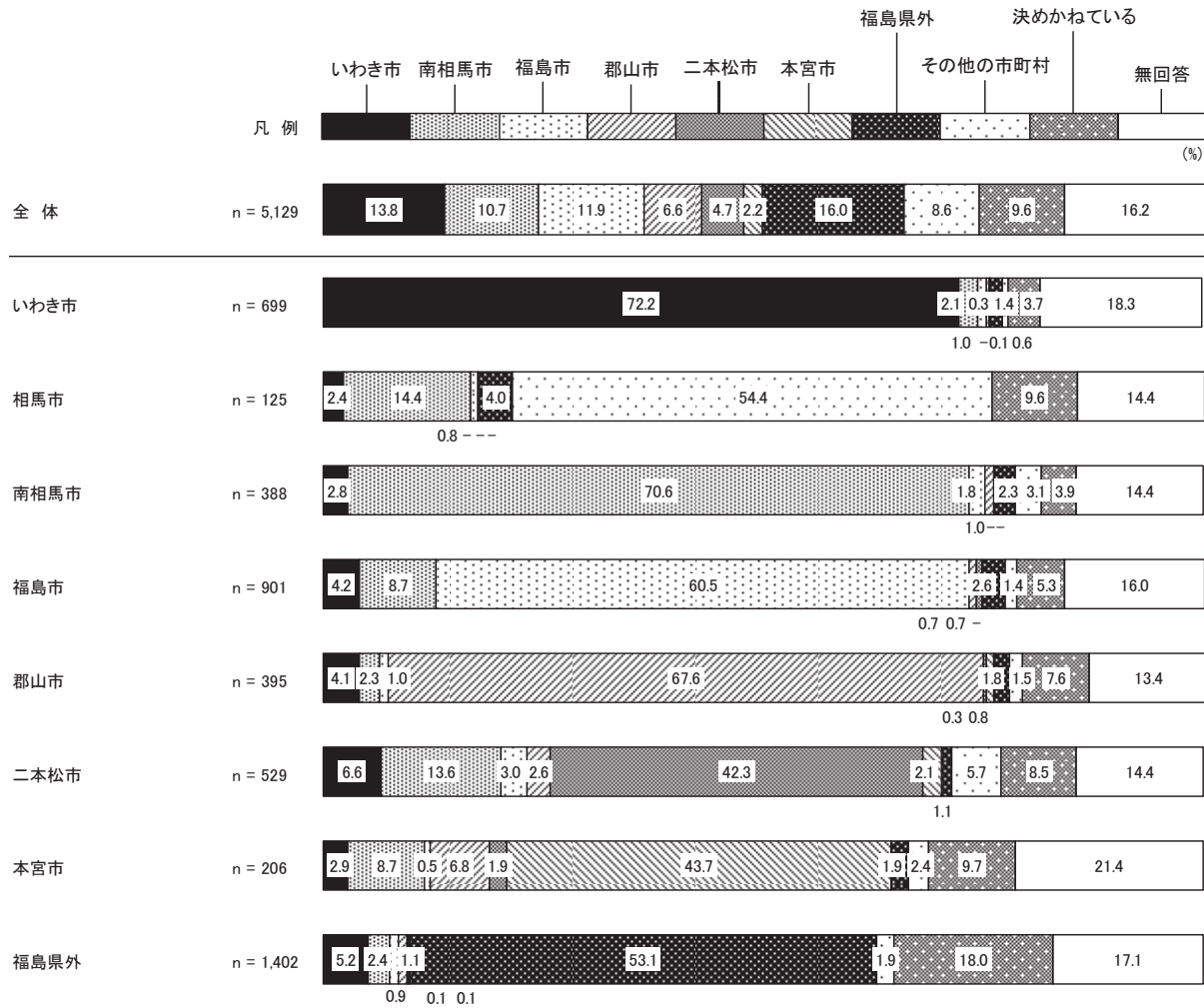


<図表 3-3-11-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）>



現在の主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体も避難先での居住を希望する割合が最も高いが、いわき市に避難している世帯の72.2%が同じ「いわき市」、南相馬市に避難している世帯の70.6%が同じ「南相馬市」、郡山市に避難している世帯の67.6%が同じ「郡山市」での居住を希望しており、他の避難先自治体と比べ、避難先自治体に継続して居住を希望する割合が高い。

<図表3-3-11-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3-12 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

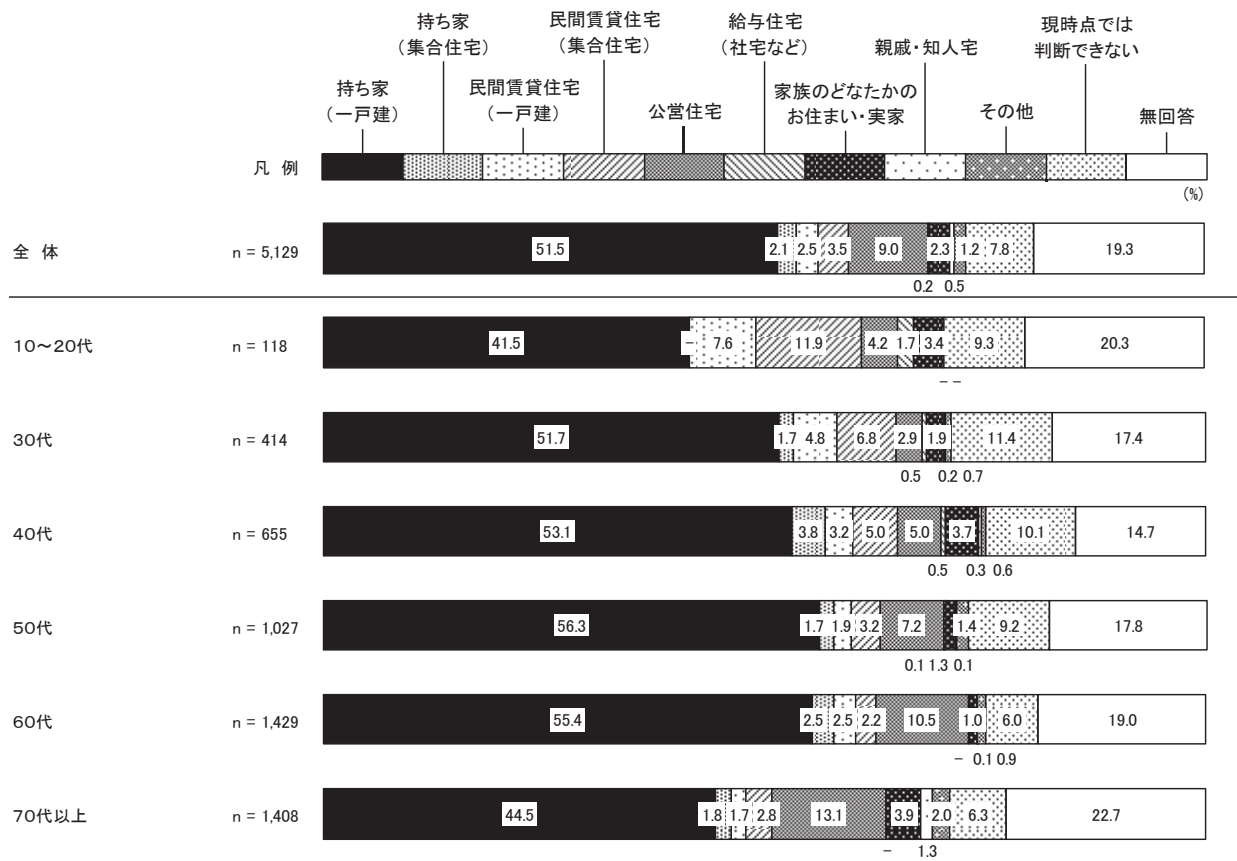
【問 10-5 で「2.いずれ戻りたい」、問 10 で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」と回答した方におうかがいします。】

問 10-11 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

浪江町へ帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が51.5%と最も高く、次いで「公営住宅」が9.0%、「現時点では判断できない」が7.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は50代が56.3%と他の年齢に比べ高くなっている。「公営住宅」は、60代が10.5%、70代以上が13.1%と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-12-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）＞



3-4 震災遺構の整備

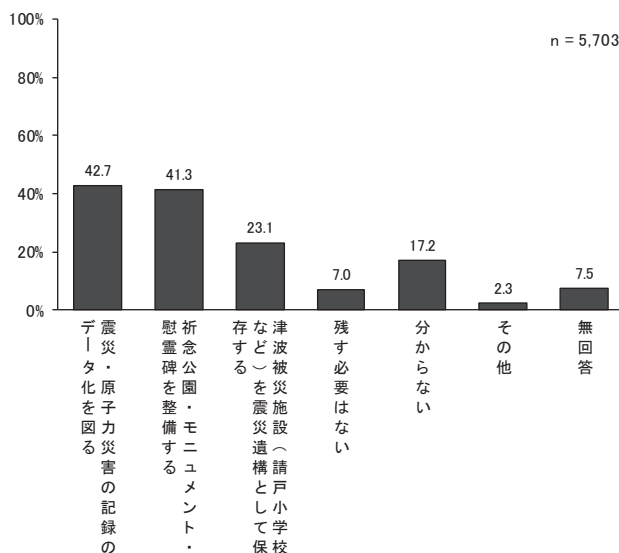
3-4-1 東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すための取組み

問 11 東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すために、どのような取組みが望ましいと思いますか。
(〇はいくつでも)

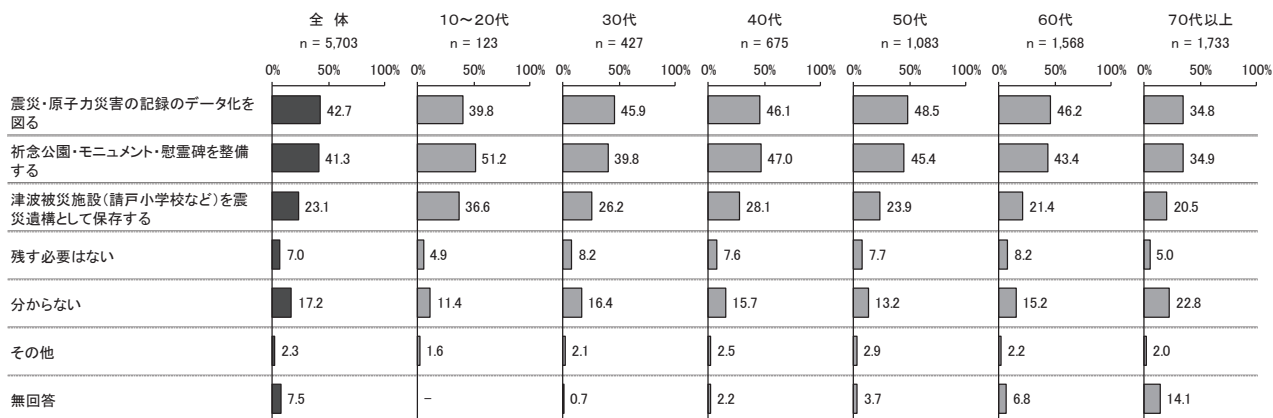
東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すための取組みについては、「震災・原子力災害の記録のデータ化を図る」が42.7%と最も多く、次いで「祈念公園・モニュメント・慰霊碑を整備する」が41.3%、「津波被災施設（請戸小学校など）を震災遺構として保存する」が23.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「震災・原子力災害の記録のデータ化を図る」は50代が48.5%と他の年齢に比べ高くなっている。「祈念公園・モニュメント・慰霊碑を整備する」、「津波被災施設（請戸小学校など）を震災遺構として保存する」は10～20代が最も高い。

<図表3-4-1-1 東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すための取組み>



<図表3-4-1-2 東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すための取組み（年齢別）>



世帯構成別にみると、「震災・原子力災害の記録のデータ化を図る」、「祈念公園・モニュメント・慰霊碑を整備する」、「津波被災施設（請戸小学校など）を震災遺構として保存する」のいずれも、18歳未満のいる世帯が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表3-4-1-3 東日本大震災・原子力災害の記録・記憶を残すための取組み（世帯構成別）＞

